

天文教育 11

2011

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



<連載> 恒星天文学の源流／天文教育普及研究会の歴史
小惑星探査機「はやぶさ」の感動から天文教育へ
天文学史教材としての天体観測儀器 3DCG 復元 ほか

天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**は1~3は原則として奇数月末日、4~7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

本誌に掲載された記事は、1年後以降に当会ホームページ (<http://tenkyo.net/>) にてpdfファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合はご投稿の際にその旨ご連絡ください。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますようお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします(執筆上の留意点なども記しています)。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

M101 に現れた超新星

撮影時：2011年9月26日 19:20 から 30秒露出
の連続撮影 16枚平均加算

撮影地：石川県柳田星の観望館「満天星」

機材：60cm リッチークレチアン+Nikon D5000

アメリカの超新星探索チーム Palomar Transient Factory は、8月24日にM101に超新星を発見しました。発見時の明るさは17.2等でしたが、爆発的に明るくなり9月7日ごろには10等まで明るくなったのはご

存知の通りです。最近ではデジタルカメラで淡い天体も比較的簡単に撮影することが出来ます。撮影開始から簡単な画像処理が終わるまで20分ほど。薄明から一般向けの観望会が始まるまでの短い時間で、手軽に超新星画像が得られるいい時代になりました。

Ia型超新星の極大時の絶対光度は約-19等。太陽系近くの恒星だったらどんな明るさになったのでしょうか。この絶対等級の値は宇宙の加速膨張を知る手掛かりとなり、今年のノーベル物理学賞をもたらしたのです。

撮影と文：土川啓(柳田星の観望館「満天星」)